

介護支援専門員実務研修受講試験問題と解答（2004年10月24日実施）

問題

1. 介護支援分野

問題1 介護保険制度施行前の高齢者介護にかかる公的制度について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 老人福祉の措置制度は、行政機関の委託を受けて、民間事業者が各人の必要性を判断し、サービス提供を決定する仕組みであった。
- 2 老人福祉の措置制度は、受けるサービスの量に応じた利用者負担（応益負担）であった。
- 3 医療供給体制の整備は進んできたが、福祉供給体制の整備が相対的に立ち遅れてきたため、病院等の医療施設が高齢者の介護需要のかなりの部分を引き受けてきた。
- 4 訪問看護等の老人医療のサービスと、訪問介護（ホームヘルプ）等のサービスを、希望者がそれぞれの窓口に申し込みをしなければならなかった。
- 5 いわゆる「社会的入院」は、高齢者の長期療養の場としては療養環境が十分ではなく、また医療資源の効率的な使用という観点からも問題があった。

問題2 介護保険制度について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 国民は、要介護状態になった場合においても、その能力の維持向上に努めることが求められている。
- 2 保険事故のうち、要支援状態は、加齢に伴って生じる心身の変化に起因する疾病が原因となっている場合に限られる。
- 3 サービスの利用は、利用者の選択を受けて、市町村が事業者や施設と契約を結ぶ仕組みである。
- 4 社会保険であるので、給付率は、保険料の納付状況にかかわらず、常に一定である。
- 5 必要な保健医療サービス及び福祉サービスが、総合的かつ効率的に提供されることを目指している。

問題3 介護保険制度における都道府県の役割について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 給付費見込誤りによる財政不足があった市町村に対し、3年に1度貸付け・交付を行うため、財政安定化基金を設ける。
- 2 介護給付費のうち、居宅給付費の12.5%に相当する額を負担する。
- 3 市町村からの委託を受けて、審査判定業務を行うことがある。
- 4 居宅介護住宅改修事業者の指定を行う。
- 5 市町村が作成する介護保険事業計画の認可を行う。

問題4 介護保険制度における住所地特例の適用があるものはどれか。3つ選べ。

- 1 介護療養型医療施設
- 2 特定施設
- 3 地域密着型介護老人福祉施設
- 4 認知症対応型共同生活介護
- 5 養護老人ホーム

問題5 介護保険の被保険者について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 日本国籍を有していても、海外勤務等で日本に住所を有しない場合には、被保険者にならない。
- 2 生活保護受給者が65歳に達した場合には、第1号被保険者にはならない。
- 3 在宅で居宅サービスを利用している被保険者が、他の市町村に転居し、在宅で引き続き居宅サービスを利用する場合には、住所地特例の適用がない。
- 4 既に要介護認定を受けている第2号被保険者は、65歳に達した後も、引き続き第2号被保険者のままである。
- 5 知的障害者更生施設に入所している者は、被保険者にならない。

問題6 介護保険の保険給付について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 被保険者証を提示せずにサービスを利用した場合には、保険給付の対象にならない。
- 2 第2号被保険者は、介護老人福祉施設の利用対象にならない。
- 3 おむつ代は、施設入所では保険給付の対象だが、短期入所では保険給付の対象外である。
- 4 身体障害者手帳を有する要支援者は、必要に応じ、障害者施設を通所で利用することができる。
- 5 施設入所者の食費は、高額介護サービス費の対象にならない。

問題7 居宅介護支援の介護報酬について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 介護支援専門員が多忙であったため、月1回の訪問が行われなかった場合には、減算の対象とならない。
- 2 特段の事情がない限り、モニタリング（居宅サービス計画の実施状況の把握及び継続的なアセスメント）を行っていても、その結果を記録していない状態が1ヵ月以上続いている場合は減算の対象となる。
- 3 減算が行われた場合でも、4種類以上の居宅サービスを居宅サービス計画に位置付けた場合には、別途加算が行われる。
- 4 サービス担当者会議の開催または担当者に対する照会等が行われていない場合には、減算の対象となる。
- 5 居宅サービス計画を交付していない場合には、その状態が解消される前月まで介護報酬が減算される。

問題8 居宅介護サービス費等区分支給限度基準額について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 要介護5の支給限度基準額は、要支援の約3倍に設定されている。
- 2 支給限度基準額の範囲を下回るサービスを利用した場合には、余った額を翌月に繰り越して使うことができる。
- 3 新規認定で月の途中から介護保険を利用する場合でも、1ヵ月の支給限度基準額が適用される。
- 4 支給限度基準額の範囲を超えるサービスを利用した場合でも、保険者がやむを得ないものと判断すれば保険給付の対象となる。
- 5 居宅介護支援には、支給限度基準額が設定されていない。

問題9 事業者及び施設について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 指定居宅サービス事業者は、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。
- 2 指定居宅介護支援事業者は、利用者に対する指定居宅介護支援の提供により事故が発生した場合には、速やかに国民健康保険団体連合会及び利用者の家族へ連絡する。
- 3 訪問介護員等は、利用者に病状の急変が生じた場合には、速やかに主治の医師への連絡を行うなどの必要な措置を講じる。
- 4 指定介護老人福祉施設は、緊急やむを得ず身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の入所者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録する。
- 5 指定福祉用具貸与事業所に置くべき専門相談員は、介護支援専門員でなければならない。

問題10 居宅サービス事業所の指定について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 基準該当居宅サービス事業所の指定は、都道府県知事が行う。
- 2 都道府県知事は、一定の指定基準違反があった場合には、指導を行わずに、直ちに指定を取り消すことができる。
- 3 訪問介護については、すでに指定されている訪問介護事業所によるサービス供給が、市町村介護保険事業計画の見込値に達している場合には、指定しないことができる。
- 4 居宅サービスの中には、指定の際、申請者に法人格を必要としていないものがある。
- 5 市町村は、指定居宅サービス事業者に居宅サービス費の請求に関し不正があると認める場合には、都道府県知事に対してその旨を通知することができる。

問題11 指定居宅介護支援事業者について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 居宅介護支援の提供を求められた場合には、その者の被保険者資格等について、被保険者証によって確認する必要がある。
- 2 市町村から居宅サービス計画の提出を求められた場合には、その求めに応じなければならない。
- 3 重要事項の説明をしていなくても、居宅介護支援の提供を開始することができる。
- 4 居宅介護支援の利用者の選定により、通常の事業実施地域以外の地域の居宅を訪問して居宅介護支援を行った場合には、それに要した交通費を利用者に請求することができる。
- 5 居宅介護支援の利用者が他の居宅介護支援事業者の利用を希望する場合には、その事業者に対し、直近の居宅サービス計画と実施状況に関する書類を提出しなければならない。

問題12 介護保険施設の介護支援専門員について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 介護支援専門員の数は、入所者の数が50人またはその端数を増すごとに1人置かなければならない。
- 2 当該施設の他の職務には、入所者の処遇に支障がない場合であっても従事することはできない。
- 3 入所者の退所にあたっては、居宅介護支援事業者との連携に努めなければならない。
- 4 施設サービス計画は、入所者の求めがあった場合に限り、入所者に交付することとされている。
- 5 施設サービス計画の作成にあたっては、可能な限り、居宅における生活への復帰を目指すこととされている。

問題13 第1号被保険者の介護保険料について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 第1号被保険者は、個別に市町村に申請を行うことにより、普通徴収か特別徴収を選択することができる。
- 2 普通徴収の対象とされている第1号被保険者の配偶者及び世帯主に対して、保険料の連帯納付義務が法律上課されている。
- 3 普通徴収の保険料納期は、市町村の条例により、年金の支払い月に合わせて定めることとされている。
- 4 時効により保険料の徴収債権が消滅した場合には、市町村は保険給付の制限を行うことができない。
- 5 負担能力に配慮した負担を求めるという観点から、所得段階別の保険料率により算定された定額の保険料が設定され、低所得者の負担が軽減されている。

問題14 介護保険法上、国民健康保険団体連合会が行うことのできる介護保険事業関係業務はどれか。3つ選べ。

- 1 都道府県から委託を受けて行う介護サービス事業者の指定および取消
- 2 介護保険事業の円滑な運営に資するために行う介護保険施設の運営
- 3 市町村から委託を受けて行う第三者に対する損害賠償金の徴収または収納
- 4 市町村から委託を受けて行う居宅介護サービス費等の審査及び支払
- 5 市町村から委託を受けて行う第1号被保険者の保険料の普通徴収

問題15 要介護認定について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 市町村は、被保険者に主治の医師がいない場合には、主治医意見書の作成依頼を省略することができる。
- 2 要介護認定は、認定が行われた日から効力を有する。
- 3 市町村は、介護認定審査会の意見に基づき、当該認定にかかる被保険者が受けることができるサービスの種類を指定することができる。
- 4 介護認定審査会では、申請者を担当する介護支援専門員が意見を述べることとされている。
- 5 市町村は、要介護認定の申請者が要支援者に該当すると認められるときには、新たに要支援認定の申請を求めることなく、要支援認定を行うことができる。

問題16 介護保険における特定疾病として正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 肝硬変症
- 2 シャイ・ドレーガー症候群
- 3 脊髄小脳変性症
- 4 拡張型心筋症
- 5 慢性閉塞性肺疾患

問題17 介護認定審査会について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 複数の市町村が共同で設置することができる。
- 2 国民健康保険団体連合会に委託して設置することができる。
- 3 保健・医療・福祉に関する学識経験者によって構成される合議体である。
- 4 審査判定の結果は、介護認定審査会から被保険者に通知される。
- 5 既に要介護認定を受けている者がほかの市町村に転出した場合には、転出先の介護認定審査会においてあらためて審査判定をおこなわなければ、要介護認定をすることができない。

問題18 A市に住んでいるBさん(76歳)は、介護保険サービスを受けるため、9月15日に要介護認定の申請を行い、10月30日に認定結果の通知が届いた。一連の手続きについて正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 BさんがA市役所に手続きの相談をしたところ、申請書に主治医意見書を添付しなければ受け付けないと言われた。
- 2 Bさんは、社会保険労務士に依頼して、認定申請を代行してもらった。
- 3 Bさんは、認定調査の際に、認定調査員から、現在受けている医療の状況について質問を受けた。
- 4 A市役所から、10月13日に、認定が遅れる旨の通知が届いた。
- 5 Bさんは、A市役所から、心身の状況に大きく変化がなければ、今後、更新認定の申請は必要ないと言われた。

問題19 介護支援専門員の基本姿勢として適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 介護サービスの利用決定にあたっては、居宅介護支援の利用者の意向にかかわらず、専門家としての自らの判断を優先すべきである。
- 2 居宅介護支援の利用者とその家族が対立する場合には、利用者を擁護する立場にありながらも中立の立場を保持すべきである。
- 3 サービスの公平性を確保するために、要介護度が同一の者には、均等にサービスを配分すべきである。
- 4 自分の属する機関のサービス内容が、居宅介護支援の利用者のニーズに合致していると考えたときでも自分の属する機関のサービスのみの情報を提供することは避けなければならない。
- 5 居宅介護支援の利用者やその家族等の生活について、問題解決に必要な情報以外の個人情報についても把握すべきである。

問題20 介護支援専門員の業務について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 居宅介護支援の利用者に解決すべき課題が新たに生じていないか、随時、把握に努める。
- 2 居宅サービス計画に基づいてサービスが適切に実施されているか、随時、把握に努める。
- 3 サービスの実施方法について、居宅サービス事業者間の調整を行う。
- 4 判断能力の乏しい居宅介護支援の利用者に代わって、利用料を支払う。
- 5 居宅介護支援の利用者に、おむつなどの介護用品の販売を行う。

問題21 正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 介護保険施設は集団生活の場であるので、個々の入所者の特性よりも介護の効率性に重点を置いた施設サービス計画を作成することが望ましい。
- 2 施設サービス計画には、ボランティアによるサービスについても位置付けることができる。
- 3 施設サービス計画は、5年間保存しなければならない。
- 4 施設サービス計画におけるアセスメント(解決すべき課題の把握)は、介護保険施設の入所者及びその家族に面接して行わなければならない。
- 5 施設サービス計画を作成した後は、特段の事情がない限り、介護保険施設の入所者に対し定期的な面接によりモニタリング(施設サービス計画の実施状況の把握及び継続的なアセスメント)を行わなければならない。

問題22 Aさん(88歳)は訪問介護と通所介護を利用しているが、寝たきりの状態で、長年にわたって同居の息子夫婦の介護を受けてきた。Aさんが利用している訪問介護事業所から、最近、あざができてることが多いと連絡を受けた。介護支援専門員の対応として、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 直接自らが確認したものではないので、Aさんか家族からの相談を待つことにした。
- 2 虐待の可能性もあると考え、市の担当課に事実の確認を依頼し、担当者と同行することにした。
- 3 Aさんが利用している通所介護事業所に、サービス提供時等にAさんにかかわる事故がなかったかを確認した。
- 4 Aさんには確認しづらいため、連絡をしてきた訪問介護事業所と話し合っ、あざの処置のために居宅サービス計画に訪問看護を追加し、提供開始日を決定した。
- 5 訪問介護事業所に依頼してAさんへのサービス提供を担当している訪問介護員に面会し、あざの状況やそのほかに気付いたことがないかを確認した。

問題23 Aさん(85歳)は要介護1で、夫(88歳)と2人暮らしであり、平屋建ての自宅に住んでいる。夫にはこれまで家事の経験がほとんどないため、Aさんに対し家事全般についての支援が必要であると思われる。介護支援専門員の対応として、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 Aさんはきれい好きであるため、訪問介護による居室の大掃除を居宅サービス計画に位置付けた。
- 2 訪問介護事業所に対し、Aさんに対する食事の準備や洗濯等の援助を行う際には、夫にも積極的な参加を促しつつサービス提供にあたるよう依頼した。
- 3 Aさんに対し地域の支えあいが必要であると考え、Aさんの同意を得て民生委員へ現在の状況を連絡し、定期的な訪問を依頼した。
- 4 Aさんが可能な限り自分で家事を行えるよう、食堂と台所の段差を解消して移動しやすくするため、介護保険の住宅改修を利用することを提案した。
- 5 当面、Aさんは在宅生活が可能と判断されたが、Aさんの安全確保のために、早急に特別養護老人ホームに入所申込をするよう勧めた。

問題24 Aさんは経験の浅い介護支援専門員である。娘夫婦と同居している利用者Bさん(78歳)について、とりあえず、居宅サービス計画原案を作ったものの、内容についてBさんは納得していない。Aさんの対応として、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 Bさんの心身の状況や生活に関する意向を再度確認し、居宅サービス計画原案の見直しを検討する。
- 2 どのように対応すべきか、地域包括支援センターに相談する。
- 3 介護支援専門員は専門職であるので、自ら作った案のとおりサービスの提供が開始されるよう手続きを進める。
- 4 居宅サービス計画原案に代えて、参考書に掲載されていた標準的な要介護度別の居宅サービス計画をBさんに勧める。
- 5 Bさん同席の下、Bさんの家族を交え、居宅サービス計画原案について話し合いの場を設ける。

問題25 Aさん(73歳)は脳梗塞で入院し、現在リハビリテーション中であるが、1ヵ月後の退院が決まった。Aさんは、軽度の片麻痺が残り、ひとり暮らしのため在宅生活への不安が大きい。Aさんからの依頼により要介護認定の申請援助を行うとともに、病院の医療ソーシャルワーカーも含めて退院後の生活や居宅サービス計画について検討した。介護支援専門員の対応として、より適切なものはどれか。3つ選べ。

1 Aさんは「不自由な体を他人に見られたくない」と強く言っているが、社会性を失わないよう、専門家としての判断に基づき、Aさんの意向にはそわないが、週2回の通所介護を位置付ける。

2 何よりも転倒防止が重要と考え、自宅では今後ベッド周囲での生活を前提としたサービスの利用に限定する。

3 Aさんは麻痺になった自分を受容することができず、すっかり自信をなくしているので、残存能力を活かしてどのような生活ができるのかを見つけるように働きかける。

4 トイレや入浴、買い物などの日常生活上の行為を、どのようにしたら安全に行うことができるかについて十分検討する。

5 Aさんが今後の目標や希望をもてるよう、どの程度までの生活動作が可能なのか、また退院後にどのようなリハビリテーションが必要なのかなどについて、医師やリハビリテーションスタッフから助言を得る。

2. 保健医療サービス分野基礎

問題26 次の検査値のうち、加齢に伴って変化しにくいものはどれか。2つ選べ。

- 1 クレアチニンクリアランス
- 2 血清アルブミン
- 3 血小板数
- 4 1秒率
- 5 AST (GOT)

問題27 高齢者によくみられる状態及び症状について適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 廃用症候群とは、日常生活での活動性の低下に伴って生じる身体的・精神的機能の全般的低下をいう。
- 2 寝たきりの原因としては、骨折・転倒が最も多い。
- 3 栄養状態を評価するために、体重はよい指標となる。
- 4 高血圧症のうち、原因がはっきりしているものを本態性高血圧症という。
- 5 糖尿病の合併症は、自覚症状が早期に現れやすい。

問題28 脳血管障害について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 脳血管障害の多くは、発症の危険因子が不明で、予防が難しいとされている。
- 2 くも膜下出血は、起床時に発症することが多い。
- 3 脳内出血では、頭蓋内圧亢進症状や高次脳機能障害がみられる。
- 4 脳血栓は、脳内で分岐する動脈にアテローム血栓ができて、その動脈の支配領域に虚血性の壊死病変を生じることをいう。
- 5 脳塞栓は、心臓でつくられた血栓が脳に飛ぶことによって起こることが最も多い。

問題29 高齢者の失禁について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 おむつの安易な着用は、尿意の後退をもたらしやすい。
- 2 腹圧性尿失禁が考えられる場合には、排尿に間に合うよう、ポータブルトイレの位置を患者のベッドの近くににする。
- 3 寝たきりの高齢者に失禁が続く場合には、水分の制限を行う。
- 4 膀胱括約筋が弛緩したり、排尿神経が鈍くなって我慢ができにくくなるために起こる失禁を、切迫性尿失禁という。
- 5 おむつを着けていても、本人が漏れていることに気付くような場合には、尿意が残っているとみなして対応する。

問題30 高齢者の口腔ケアについて適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 誤嚥性肺炎を予防する効果がある。
- 2 加齢に伴い唾液分泌が減るため、口腔ケアが必要である。
- 3 口腔清掃は、機械的清掃より化学的清掃の方が効果的である。
- 4 経管栄養を行っている場合には、口腔清掃の必要性は低い。
- 5 要介護者が自分でできることは必ずしてもらい、足りないところを介助することが重要である。

問題31 リハビリテーションについて適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 リハビリテーションにおいては、障害を多角的に理解し、援助は総合的に提供されることが重要である
- 2 維持期のリハビリテーションは、自立生活を支援することが目的であり、筋力増強のための運動は行わない。
- 3 リハビリテーションに伴う危険を予測するため、疾病や障害の状況、バイタルサイン、睡眠パターンなどを事前に確認することが重要である。
- 4 長期臥床後に座位訓練を行う場合には、低血圧を生じる可能性が高いため、血圧チェックや自覚症状への配慮が重要である。
- 5 関節可動域訓練は、痛みを伴うことが多く、また筋肉損傷の可能性もあるため、他動訓練を第一に選択する。

問題32 認知症について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 高齢者人口における認知症高齢者の割合は、次第に減少の傾向にある。
- 2 アルツハイマー型認知症では、「まだら痴呆」が特徴的にみられる。
- 3 加齢による聴力や視力の低下などが、発症の誘因となることがある。
- 4 異常な行動が認知症の初期症状か性格によるものかは、普段から見ている家族でも、判断が困難なことがある。
- 5 発症前後の精神的状況として、何もする気がおきないなどの意欲の低下や、怒りっぽくなるなどの性格の変化がみられる。

問題33 薬剤について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 加齢に伴い、肝機能が低下して、薬の作用が強まることがある。
- 2 高齢者においては、併用される薬剤数が多いので、薬の相互作用や副作用の発現に注意が必要である。
- 3 血液中にある薬は、血液中の蛋白質と結合して作用する。
- 4 薬を飲む場合には、希釈されることを考え、なるべく少量の水で飲むほうがよい。
- 5 薬の副作用として、手の震えやうつ症状等がみられることもある。

問題34 在宅での医療管理について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 在宅自己腹膜灌流法を行っている患者の場合には、水分バランスや体重、炎症の可能性等の定期的な観察が必要である。
- 2 中心静脈栄養のポートを皮下に植え込んである場合には、皮下の炎症の有無に注意する必要がある。
- 3 胃瘻を造設している場合には、経口摂取は平行して行ってはならない。
- 4 在宅酸素療法により、慢性呼吸不全患者の在宅療養生活が可能となった。
- 5 在宅において末期癌患者の疼痛緩和を行う場合には、麻薬の使用は禁止されている。

問題35 高齢者虐待について適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 被虐待高齢者は、男性のほうが多い。
- 2 高齢者虐待の内容は、身体的暴力がほとんどである。
- 3 高齢者が極端に人目を避けたりすることも、高齢者虐待を発見するための兆候の1つである。
- 4 介護者自身の精神的疲労やストレスは、虐待発生の危険因子の1つである。
- 5 同居家族が加害者の場合には、必ず被虐待高齢者に対し施設入所を勧める。

問題36 適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 骨粗鬆症の予防には、適度な運動も有効である。
- 2 骨粗鬆症の予防には、ビタミンEの摂取が有効である。
- 3 認知症の予防には、社会的孤立を防ぐことも有効である。
- 4 糖尿病性腎症の予防には、血糖コントロールが有効である。
- 5 褥瘡の予防には、良肢位を長時間保ち続けることが有効である。

問題37 介護保険における通所リハビリテーションについて正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 通所リハビリテーション事業者の指定を受けられるのは、病院、診療所、介護老人保健施設に限られる
- 2 通所リハビリテーションの利用者のうち居宅介護サービス費の給付対象となる者は、要介護1から要介護5の者に限られる。
- 3 個々の利用者に応じて作成された通所リハビリテーション計画に基づいて行われるため、グループごとにサービス提供を行うことはできない。
- 4 通所リハビリテーション計画は、医師及び理学療法士、作業療法士その他専らリハビリテーションの提供にあたる従業者が共同して作成しなければならない。
- 5 独居老人のための調理訓練は、通所リハビリテーション計画に位置付けられることはできない。

問題38 介護保険における訪問リハビリテーションについて適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 炊事、掃除、洗濯などのIADLの維持改善は、訪問リハビリテーションの目的に含まれない。
- 2 筋萎縮、関節拘縮等の廃用症候群の予防も、訪問リハビリテーションの目的の1つである。
- 3 訪問リハビリテーションは、理学療法士や作業療法士の判断で開始できる。
- 4 特定施設入居者生活介護を受けている高齢者には、訪問リハビリテーション費が算定されない。
- 5 指定訪問看護ステーションの理学療法士や作業療法士がリハビリテーションを実施した場合には、訪問リハビリテーション費が算定される。

問題39 介護老人保健施設について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 介護老人保健施設で提供される通所リハビリテーションは、要介護1から要介護5の認定を受けた者が対象である。
- 2 介護老人保健施設は、あらかじめ協力病院を定めている場合には、医師を置く必要はない。
- 3 入所者が健康手帳を有している場合には、健康手帳の医療にかかるページに、提供した介護保健施設サービスに関し必要な事項を記載しなければならない。
- 4 介護老人保健施設は、地域に開かれた施設として、家庭介護者や地域のボランティアなどがケア技術を習得する支援等に努める。
- 5 病状が安定期にあることが、介護老人保健施設の入所要件の一つである。

問題40 介護療養型医療施設について正しいものはどれか。2つ選べ。

- 1 施設サービス計画は、医師または看護師が作成しなければならない。
- 2 介護療養型医療施設は、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護、機能訓練などを提供する。
- 3 現在、介護療養型医療施設の指定を受けられるのは、療養病床を有する病院・診療所、老人性認知症疾患療養病棟を有する病院、介護力強化病院である。
- 4 介護療養型医療施設の医師は、医学的に入院の必要性がないと判断した場合には、患者に対し、退院を指示しなければならない。
- 5 認知症高齢者は、老人性認知症疾患療養病棟にのみ入院できる。

3. 保健医療サービス分野総合

問題41 適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 狭心症は、冠動脈の狭窄により起こる。
- 2 1型糖尿病は高齢者に多いが、2型糖尿病は若年者に多く発症する。
- 3 パーキンソン病の治療の一つとして、脳手術がある。
- 4 前立腺肥大症では、排尿回数が増える。
- 5 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病は、高齢者に多い疾患である。

問題42 適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 血清アルブミン値は、高齢者の栄養状態を示す指標となる。
- 2 低栄養状態では、免疫能が高まる。
- 3 低栄養となる原因として、服薬による食欲低下があげられる。
- 4 肥満の場合には、食物繊維の摂取は避けたほうがよい。
- 5 ヘモグロビンA_{1c}は、測定時の血糖状態を知るのに適している。

問題43 適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 高齢者の感染症では、咳嗽、発熱、腹痛等の症状が強く出ない場合がある。
- 2 結核は、医学の発達により、現在では発症例はない。
- 3 疥癬は、「ヒゼンダニ」によって起こる皮膚感染症である。
- 4 B型肝炎及びC型肝炎は、原則的に血液を介して感染する。
- 5 せん妄は、感染症が原因で生じることがない。

問題44 居宅療養管理指導について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 医師または歯科医師は、居宅介護支援事業者または居宅サービス事業者に対し、居宅サービス計画の作成、居宅サービスの提供等に必要な情報提供または助言を行う。
- 2 薬剤師によって行われる居宅療養管理指導は、医師または歯科医師の指示に基づいて行われる。
- 3 口腔内の清掃または有床義歯の清掃に関する指導は、歯科衛生士だけでなく、保健師や看護師、准看護師も行うことができる。
- 4 在宅で、気管カニューレ等の生命維持に必要な器具をつけている人は、居宅療養管理指導の対象とならない。
- 5 保険医療機関または保険薬局が居宅療養管理指導を行う場合には、指定事業者としての申請を行い、指定を受けなければならない。

問題45 介護保険の給付の対象となり得る訪問看護はどれか。3つ選べ。

- 1 68歳。糖尿病性腎症。在宅で腹膜灌流を実施するため、訪問看護を希望している。
- 2 60歳。パーキンソン病（ヤールのステージ2）。療養指導のため、訪問看護を希望している。
- 3 46歳。糖尿病。現在、合併症はないが、インシュリン注射で血糖値管理を行うため、訪問看護を希望している。
- 4 72歳。認知症対応型共同生活介護を受けているが、高血圧があるため、定期的な訪問看護を希望している。
- 5 70歳。脳梗塞後遺症で右片麻痺。リハビリテーションや入浴介助のため、週4回の訪問看護を希望している。

4. 福祉サービス分野

問題46 ソーシャルグループワーク（集団援助技術）について、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 ワーカーは、自分だけが悩みを抱えているのではないということを理解できるように、共通の問題を抱えるメンバー同士の話し合いの場面を設ける。
- 2 ワーカーは、集団内におけるメンバー相互の関係が新たに形成されていく過程に介入してはならない。
- 3 ワーカーは、メンバー間の相互関係を大切にすため、いつもは依存しがちなメンバーが他の泣いているメンバーを慰めるようになるという展開を見守ることもある。
- 4 グループワークでは、勝ち負けをつけるようなプログラムは、メンバーの自尊心を傷つけることがあるため用いてはならない。
- 5 グループワークの過程は、メンバーが他のメンバーの行動から自分の問題をあらためて確認したり、新しい見方を獲得する機会となる。

問題47 インテーク面接（相談援助の導入時における受付面接）における留意点について、より適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 インテーク面接は、訪問により行うことが原則である。
- 2 インテーク面接においては、利用者の情報を確実にすることが重要なので、まず最初にチェックリストにより質問を開始する。
- 3 利用者との信頼関係を得るために、主訴の聞き取りを始める前に面接者やその所属する援助機関でできること、できないことをまず明確に伝える。
- 4 インテーク面接の過程で問題の輪郭が浮き彫りになる中で利用者の対応の仕方やサービス利用の抵抗感なども聞く。
- 5 インテーク面接の記録には、面接者の意見や見通しも記載する。

問題48 高齢の妻の介護をしている夫Aさん（80歳）は、「他人の世話にはならない」として、妻に対する介護保険サービスの利用を拒否している。Aさんに対する地域包括支援センターのソーシャルワーカーのコミュニケーション技術として、より適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 妻の介護を1人でやってきたことをまず話そうとするAさんに対し、「はい」か「いいえ」で答える質問形式を用いて、適切な介護が行われていたかどうかを確認していく。
- 2 Aさんの行動をより理解するために、Aさんの話にうなずいたり、話の先を促したりする。
- 3 サービスの利用を拒否している理由を言いたがらないAさんに対して、思い当たる理由を挙げて、一方的に聞いていく。
- 4 「他人の世話にはならない」とのAさんの言葉を反復して返すことで、Aさんの気持ちに共感を示す。
- 5 「サービスを受けたくないのは、スティグマを感じるからなんです」とAさんの気持ちを専門用語を用いてまとめる。

問題49 コミュニティワーク（地域援助技術）について、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 アルコール依存症の問題にかかわる機関は保健所であるので、当事者組織や新たなNPOをつくる活動は適切ではない。
- 2 特別養護老人ホームのソーシャルワーカーが、近所の小学校の校長に働きかけ、高齢者と小学生の世代間交流の機会をつくる。
- 3 1人で独居高齢者への声かけのボランティア活動を続ける。
- 4 駅のバリアフリー化を推進するために、社会福祉協議会のソーシャルワーカーが、鉄道会社に高齢者の駅の利用実態調査を実施するように働きかける。
- 5 通院手段の確保ができず受診ができない高齢者の再入院例が続いたため、病院のソーシャルワーカーがその実態を数ヶ所の病院で合同調査し、通院システムのあり方について提案していく。

問題50 Aさん（78歳）には、軽度の認知症がある。Aさんに対する介護支援専門員のかかわり方として、より適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 Aさんの意向をできる限り引き出そうとしながら、介護支援専門員もそれを理解する努力をしていった
- 2 Aさんが外出することは家族に大きなストレスを与えると考え、これまでAさんが楽しみにしていた近所の高齢者同士の集まりへの参加を制限した。
- 3 Aさんは、現在通っているB通所介護事業所の利用を強く希望しているが、より通所時間の短いC通所介護事業所の利用に変更することとした。
- 4 家族の意向がAさんの意向と違っているように思えたので、「Aさんは違うように思っているのではないのでしょうか」と家族に相談をした。
- 5 Aさんは頻繁に外出したが、以前行方不明になったことがあったので、安全確保のため、Aさんの居室に鍵をかけておくよう家族に勧めた。

問題51 指定訪問介護について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 訪問介護計画は、その内容について利用者の同意を得るとともに、利用者に交付されなければならない。
- 2 事業の運営にあたっては、調理のみを提供することができる。
- 3 サービス提供責任者は、利用頻度が低い利用者については訪問介護計画を作成しなくてもよい。
- 4 3級訪問介護員のサービス提供については、身体介護だけでなく生活援助についても介護報酬が70%に減額される。
- 5 訪問介護計画では、具体的なサービスにかかわることだけでなく、援助の方向性や目標について記載することが求められている。

問題52 短期入所生活介護について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 日常生活を送る上で必要な生活機能の改善を図るため、利用者の家庭環境等を考慮し、必要な機能訓練を行う。
- 2 住宅での孤立状況の改善を図るため、入所中にも仲間作りを働きかける。
- 3 入所前後のサービスの連続性を確保するため、入所中の短期入所生活介護計画は、居宅サービス計画を作成した介護支援専門員が作成する。
- 4 要介護者本人の生活支援が目的であるので、家族の趣味や文化活動を理由とした利用はできない。
- 5 居宅生活の継続の観点から、利用期間は、要介護認定有効期間の概ね半数以下を目安にすることとされている。

問題53 認知症対応型共同生活介護について適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 認知症対応型共同生活介護計画は、居宅サービス計画に沿って作成される。
- 2 共同生活住居の入居定員は、5人以上9人以下されている。
- 3 共同生活住居の管理者は、認知症高齢者への介護提供について知識及び経験のない者でも、一定の研修を受ければ就任することができる。
- 4 認知症対応型共同生活介護では、利用者間の人間関係がうまくいかないときに、逃げ場が作りにくいという難しさがある。
- 5 1つの事業所で有することのできる共同生活住居の数については、制限がない。

問題54 福祉用具について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 福祉用具の利用にあたっては、廃用症候群が生じないように留意する。
- 2 予防給付と介護給付では、給付対象となる特定福祉用具の種目は異なる。
- 3 移動用リフトは、介護者の腰痛の予防など介護負担の軽減に有効である。
- 4 認知症対応型共同生活介護の利用者には、福祉用具貸与費を支給することができる。
- 5 工事を伴わず使用できるスロープは、福祉用具の貸与種目に含まれる。

問題55 住宅改修費の支給対象となるものについて正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 和式便器から洋式便器への取替え
- 2 廊下や階段の足元灯の取付け
- 3 畳敷から板製の床への変更
- 4 扉の取替えに伴う壁や柱の改修
- 5 移動用リフトの設置

問題56 介護老人福祉施設における施設サービス計画の作成について、より適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 居宅介護支援事業所から提供された情報や家族との面接により、十分に入所者のニーズを把握できたので、入所者との面接をせずに計画の原案を作成した。
- 2 食事と入浴の時間について、本人の希望を確認してから計画の原案に記載した。
- 3 入所者から「毎月買物に行きたい」との希望があったので、ボランティアに依頼して、月1回、買物に行くことを計画の原案に組み込んだ。
- 4 計画の原案について、入所者にわかりやすく説明し、口頭で同意を得た。
- 5 入所者が見やすいように、施設サービス計画に含まれる週間サービス計画表と日課計画表を廊下に掲示した。

問題57 介護支援専門員が活用する社会資源について適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 インフォーマルなサポート（サービス）は、地域社会により大きく異なるので、介護支援専門員はその正確な情報を収集・整理しておく必要がある。
- 2 要介護者等の家族や親戚は、社会資源と対比して内的資源と呼ばれ、介護支援専門員が活用すべき資源のうち重要な位置を占めている。
- 3 株式会社や有限会社が提供するサービスは、全てインフォーマルなサポート（サービス）にあたる。
- 4 フォーマルなサービスは、一般的にインフォーマルなサポート（サービス）に比べ柔軟な対応が可能である。
- 5 要介護者等を支援するためには、介護保険サービスのほか、市町村が実施している保健福祉サービスや地域におけるボランティア活動などの活用も重要である。

問題58（新作問題） 地域包括支援センターについて適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 地域の高齢者の心身の健康の保持、保健・医療の向上、福祉の増進、生活の安定のために必要な援助や支援を包括的に行う中核機関である。
- 2 都道府県が直接または委託により設置する。
- 3 基幹型地域包括支援センターと地域型地域包括支援センターの2つの類型に区分される。
- 4 地域支援事業のうち、包括的支援事業を行う。
- 5 保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員が配置される。

問題59 高齢者虐待について、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 介護支援専門員は、虐待が疑われた時点で市役所等の公的機関に相談する。
- 2 施設職員が入所者のおむつ交換を行わず放置するなどの不適切な介護は、組織運営上の問題であり虐待にあたらぬ。
- 3 高齢者の意に反し、その年金を家族が自らの借金返済に勝手にあてることは、虐待にあたらぬ。
- 4 介護支援専門員は、虐待の可能性を示すサインを発見したら、その高齢者が利用している居宅サービス事業所等と情報交換をして事実確認をすることが大切である。
- 5 高齢者が虐待され、そのまま放置できない場合には、特別養護老人ホームへの入所措置ができる。

問題60 成年後見制度について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 成年後見人は、被後見人が行った法律行為について、被後見人にとって不利益なものは原則として取り消すことができる。
- 2 成年後見人は、被後見人の介護サービス利用契約や施設入所契約を本人に代わって行うことができる。
- 3 成年後見人の職務の1つである身上監護には、被後見人の見守りや相談業務等のほか、身体介護が含まれている。
- 4 四親等内の親族がいる場合には、後見人を選任することができない。
- 5 任意後見人制度とは、判断能力が不十分になる前に、後見人になってくれる者をあらかじめ選任しておく制度である。

解答

1. 介護支援分野

- 解答1 3・4・5 介護保険制度施行前の制度
解答2 1・5 介護保険制度全般
解答3 2・3 介護保険制度における都道府県の役割
解答4 1・2・5 住所地特例
解答5 1・3 被保険者
解答6 4・5 保険給付
解答7 2・4・5 居宅介護支援の介護報酬
解答8 3・5 居宅介護サービス費等区分支給限度基準額
解答9 1・3・4 居宅サービス事業者・介護保険施設
解答10 2・4・5 居宅サービス事業所の指定
解答11 1・2・4 指定居宅介護支援事業者の運営基準
解答12 3・5 介護保険施設の介護支援専門員
解答13 2・5 第1号被保険者の保険料
解答14 2・3・4 国民健康保険団体連合会の介護保険事業関係業務
解答15 3・5 要介護認定
解答16 2・3・5 特定疾病
解答17 1・3 介護認定審査会
解答18 2・3・4 要介護認定の手続き
解答19 2・4 介護支援専門員の基本姿勢
解答20 1・2・3 介護支援専門員の役割・業務
解答21 2・4・5 施設サービス計画の作成
解答22 2・3・5 高齢者虐待
解答23 2・3・4 生活援助の必要な場合の介護支援専門員の対応
解答24 1・2・5 ケアプランに同意が得られないケース
解答25 3・4・5 退院後の独居生活のケース

2. 保健医療サービス分野基礎

- 解答26 3・5 検査値とその意義
解答27 1・3 高齢期に多い疾病および障害
解答28 3・4・5 脳血管障害
解答29 1・4・5 失禁への対応
解答30 1・2・5 口腔ケア
解答31 1・3・4 リハビリテーションの基本
解答32 3・4・5 認知症高齢者の介護
解答33 1・2・5 薬剤管理
解答34 1・2・4 在宅での医療管理
解答35 3・4 高齢者虐待
解答36 1・3・4 高齢期に多い疾病および障害
解答37 1・2・4 通所リハビリテーション

- 解答38 2・4 訪問リハビリテーション
解答39 3・4・5 介護老人保健施設
解答40 2・4 介護療養型医療施設

3. 保健医療サービス分野総合

- 解答41 1・3・4 高齢期に多い疾病および障害
解答42 1・3 栄養管理
解答43 1・3・4 感染症への対応と予防
解答44 1・2・3 居宅療養管理指導
解答45 1・2・5 訪問看護

4. 福祉サービス分野

- 解答46 1・3・5 ソーシャルグループワーク（集団援助技術）
解答47 4・5 インテーク面接
解答48 2・4 事例問題（サービスの拒否）
解答49 2・4・5 コミュニティワーク（地域援助技術）
解答50 1・4 認知症へのかかわり方
解答51 1・4・5 訪問介護
解答52 1・2・5 短期入所生活介護
解答53 2・4 認知症対応型共同生活介護
解答54 1・3・5 福祉用具
解答55 1・3・4 住宅改修費
解答56 2・3 介護老人福祉施設
解答57 1・5 社会資源
解答58 1・4・5 地域包括支援センター（出題された当時は「在宅介護支援センター」について）
解答59 1・4・5 高齢者虐待
解答60 1・2・5 成年後見制度